

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	火災出動で2階窓の破壊活動中、ガラス片が三連梯子の確保隊員に当たり右手第2指を切創。
3. 体験した事例の中心的要素	・出火建物2階居室部分の排煙を行うため、屋外から三連梯子を架梯し窓ガラスを破壊するよう小隊長(車長)が指示したが、その際、安全管理が十分ではなかった。
4. 体験した事例の原因・理由	・三連梯子を確保する隊員の位置が、破壊する窓の落下位置に近かったが、真下に位置していなかったため、事故を予見できなかった。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。
-------------------------	------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成26年10月24日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：火災発生建物の側
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	切り・こすれ
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[木造建物]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	破壊活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[30]歳、勤続年数[12]年、現場経験年数[12] 年、階級[消防副士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[26]歳、勤続年数[1]年、現場経験年数[1] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[45]歳、勤続年数[26]年、現場経験年数[26] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [車長]
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	Aが	三連梯子に登梯し、出火建物2階窓を破壊。	
経過2	Bが	三連梯子の基底部を確保していた。	
経過3	Cが	破壊を命令した。	
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。 個人装備が不適切だった。 指揮者が適切に指示しなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	はい

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

・本件火災の検証会を実施し事故原因を究明。
・小隊長(車長)は災害活動時には常に最悪のケースを想定し、最善の指示を行うよう。また、、三連梯子の梯上で活動する隊員と、基底部を確保する隊員間の連携を徹底し、安全管理には最善を尽くすよう署長から指示・指導があった。

○装備・資機材の対策について

・災害活動時に着用する手袋は、耐熱性・耐切創性に優れたアラミド繊維のケブラー製の手袋を着用するよう全隊員に指導した。

○活動環境の対策について

・消防活動時における公務災害等を防止するため、職員の安全管理に必要な事項について定めた「消防職員安全管理要領」を作成し全職員に周知。 職員の火災現場での安全確保と、活動別安全基準を明確にした。

○指揮・情報伝達の対策について

・災害現場における指揮隊が成すべく「指揮活動要領」を作成し職員に周知。情報伝達の対策も明確にした。

様式2 事故事例が発生した状況写真

(※写真は庁舎壁面、実際は火災発生建物)

事故の状況：火災出動で2階窓の破壊活動中、ガラス片が三連梯子の確保隊員に当たり右手第2指を切創。

※破壊した窓は梯上の隊員が持つ鳶口の先端に位置している。

